

✿ これからの川づくり ✿

第1回ワークショップの議論で、「うろ」がなくなった」「川が単調になった」「生物が少なくなった」などの意見が挙げられました。

本来、自然の川では、蛇行を繰り返す、流れに沿って瀬や淵、大きな石や砂、土などがあります。また、岸辺には草や樹木が繁茂し、水面に影を落としています。河川はこのように多様な環境から成り立っていて、川の生き物はそれぞれの条件に適した環境の中で、生息・生育・繁殖しています。

しかし、これまでの河川工事では、洪水被害の防止や人間の利用が優先され、川が単調化したり、いきものの生息環境が失われることも少なくありませんでした。京都府では、生き物に悪い影響を与えるような河川工事のやり方を見直し、生き物と生息環境を守りながら河川工事を行う方法が進められています。

こうした川づくりを一般的に『多自然川づくり』といいます。

多自然川づくりでは、

- ・ 河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境、
並びに多様な河川風景を保全、あるいは創出する。
- ・ 地域の暮らしや歴史・文化との調和に配慮した川づくりを進める。
- ・ 造った後にも、自然環境の変化や川の状態をみて最適な状態に管理していく。
などを目的としています。



大手川でも、“生物にやさしい川づくり”や“上宮津ならではの風景を有する川づくり”を進めていきたいと考えています。

～未来につなごう 思い出の一枚～

これからの川づくりでは、どこにでもある川づくりではなく、大手川ならではの、上宮津ならではの川づくりが求められています。そこで、みなさんにお願ひがあります。

“私は大手川のここが好き”
“私は大手川のこの風景を残したい”

または

“昔あった〇〇な風景が好きだった”
“大手川の昔の風景を取り戻したい”

などの写真を、次回ワークショップにご持参いただけませんか？
アルバムにしまった思い出の写真でも結構ですし、新たに撮影していただいた写真でも結構です。
『みんなに伝えたい風景』『未来に残したい風景』をワークショップで語り合ひましょう！

すばらしい1枚をお待ちしています。

大手川・川ワーク参加者

伊藤 千夏/伊藤 秀樹/岡田 英文/車田 公一/粉川 正太郎/粉川 紀子/後藤 真里子/柴谷 保生/上家 透/白石 裕久/
直田 国昭/直田 正美/関野 揚司/智原 侃一/智原 正明/智原 芳明/細見 照一/細見 英子/細見 貢/細見 ゆかり/
宮本 裕章/八尋 慈教/吉田 明生/
東井 裕純/安藤 浩道/坂井田 貴士/橋本 和実/平田 俊也/安田 肇/
井上 靖生/片岡 しおり/久保田 洋一/庄野 洋平/平野 寿謙/山本 忠雄 ※敬称略

◆お問い合わせ先：京都府丹後土木事務所 災害対策室 平田、安田、安藤、坂井田
TEL：(0772)22-3243 FAX：(0772)22-3250
ホームページ：http://www.pref.kyoto.jp/tango/tango-doboku/

「調べて、学んで、創ろう！上宮津の親水空間」

大手川・川ワークだより



発行
京都府丹後土木事務所
〒626-0044 京都府宮津市宇吉原 2586-2
tel: 0772-22-3243 / Fax: 0772-22-3250



『第1回大手川・川ワーク』開催！！

「調べて、学んで、創ろう！上宮津の親水空間」大手川ワークショップから「大手川・川ワークだより」創刊号を発行します。この“たより”は、ワークショップ形式で参加者の皆様と一緒に大手川（上宮津地区）の川づくりについて検討している模様を取りまとめたものです。このワークショップは、今後2回を予定しており、その度に“たより”を発行する予定です。

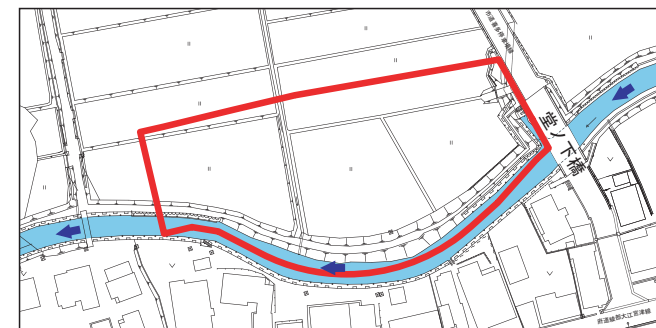


京都府丹後土木事務所
災害対策室長 東井裕純

ワークショップ設立のあいさつ

大手川では、平成16年10月の台風23号と同等の洪水が発生しても氾濫しない川づくりを進めています。上宮津地区でも1日も早く工事を進めたいと考えています。つきましては、古くから大手川と共に生活をされている皆さんと共に、「地域で創って育てる川づくり」を目標に、総合学習や、地域のコミュニティーの形成の場となるように、意見を頂きたいと考えております。

今回のワークショップが防災意識の向上や、川への愛着に繋がることを期待し、よりよい川づくりができますようお願い申し上げます。



整備対象範囲位置図

ワークショップの開催経過と予定

■第1回ワークショップ■

7/22 (日) ・現状の把握
・課題の整理

開催済み

第1回ワークショップ開催
平成19年7月22日(日)、宮津市上宮津地区公民館において第1回ワークショップが開催されました。

2ページに詳しく掲載！

■第2回ワークショップ■

9/24 (月・祝) ・整備テーマの設定
・整備計画案作成

次回

第2回ワークショップ
次回ワークショップの検討内容は…
大手川の「良いところ」「悪いところ」、「こんなだったらいいな」を踏まえて、みんなで「こんな川にしたい」を絵にしていきます。ご期待下さい。



次回はここに夢を描いていきます！

■第3回ワークショップ■

10月 または 11月 ・整備計画案の取りまとめ

予定

第1回目の今回は、3グループに分かれた後、グループリーダーの進行により、大手川の現況に対する「良いところ」「悪いところ」、これからの大手川に対するイメージについて話し合いが行われました。終始和やかな雰囲気の中で活発な議論が行われました。

ワークショップ内容

1. ワークショップの目的・進め方の説明
2. 現地及び地域の現況（特性など）説明
3. 現地見学
4. グループ作業
5. 全体発表
6. 講評
7. ふりかえり

各グループの検討を披露

各グループにてグループリーダーが選出され、グループ活動が開始されました。
 「魚の種類が多い」「洪水に弱い」「大人も子供も遊びたくなる川にしたい」など、対象地域の現状や整備計画のイメージなどが討議されました。
 各グループでの討議内容は、「良いところ」「悪いところ」などに整理され、最後にグループリーダーにより披露されました。主な意見は次のとおりです。

大手川の良いところ
 大手川の悪いところ
 大手川〇〇だったらいいな

グループ1

グループ名は「あいもとし会」



あい“鮎”、色んなものを愛するという意味で“あい”もとし会

- ・心安らく風景がある
- ・アユが棲めるきれいな水
- ・人の生活と身近な川
- ・溪流的な環境、良好な水質など環境がよい

- ・洪水に弱い
- ・護岸が高く川に入れるところがない
- ・土の“うろ（魚が溜まる深み）”が見られない
- ・川が単調になった
- ・生活ゴミが流れている

- ・災害に強い川
- ・魚が棲める川
- ・川に降りて遊べる川
- ・いつまでも美しい川
- ・連続的な散策路、休憩場所になる広場、木陰のある広場
- ・近所の人が集える場
- ・花見、花火、バーベキュー

グループ2

グループ名は「イクラ丼グループ」



昔大手川にもサケが上がっていて、そのサケにまた上がってもらって、イクラが食べたらいいなという食欲のあるグループ

- ・川の側に樹木がある、アユが捕れる、など自然豊か
- ・泳げるくらい水がきれい
- ・川端からの景色、のどかな景色がよい
- ・石積の護岸がよい

- ・護岸が急で川に近づきにくい
- ・護岸ばかりで殺風景である
- ・川へ素足で入れない（ゴミが多くなった）
- ・生物が少なくなった
- ・台風が来ると床上浸水する
- ・生活ゴミや生活排水が入っている

- ・サケが戻る川
- ・元の川を残したい
- ・人も魚もすみやすい、親しめる川、素足で遊べる川
- ・上宮津の景色を大切にしたい
- ・風水害に強い川
- ・事例を紹介してほしい

グループ3

グループ名は「△口班」



多分3番煎じになるんで、もう言う事がないだろうなという事で、「△(6)口班」

- ・水がきれい
- ・魚の種類が多い
- ・保育所裏の環境が好き
- ・石造りの階段のある風景がよい

- ・ブロックが多すぎる、ブロックが高くて川に降りにくい
- ・護岸がブロックで景色が良くない
- ・川のすぐ側まで民家がある
- ・水が少ない

- ・大人も子供も遊びたくなるような川
- ・魚とりのできる川
- ・宮津のシンボルになる自慢できる空間に
- ・治水優先で、できるだけ自然を残す

参加者の感想

私が、きづいたのは、

- ・行政が積極的に取り組んでいるのにおどろいた。
- ・川は行政が勝手によくしてくれるものだと関心がなかったのですが、自分達で作って行くんだという思いが持てた。
- ・地元の方の熱心な思い。みんな川が好きなんだなあと感じた。

私が、おどろいたのは、

- ・意外とみんな川であそびたいのだな。
- ・多くの方が同じ様な意見を持ってもらえる。
- ・時間が過ぎるのが早かった。役所も変わってきた。

私が、うれしかったのは、

- ・自分達の意見が行政の中に汲み入れられる機会が持てるというのは良いことである。
- ・参加した方から昔の川の様子を聞けたり、思いを知ることができた。
- ・参加者が積極的だった。

私が、がっかりしたのは、

- ・最後のアンケートで“気乗りしない”という人がいたこと。

私が、学んだのは、

- ・昔の川の話が聞けた。川岸に竹林が多かった。魚もたくさんいたなど。
- ・自分が住んでいる地域のことをもっと深く知って、関心を持たないといけないと思いました。
- ・漠然としか想像できなかった新しい流域がはっきりとイメージできたこと。

私にとって、必要だと思ったのは、

- ・今後、地元のもの自分達の川だという意識で取り組むべきです。
- ・専門的な知識は持たなくても、常に関心は持っていないと感しないと感じた。
- ・もっと頭をやわらかくして考えること。いろんな発想ができる様に。

その他に、考えたこと、書いておきたいことは、

- ・多く話しを聞き、これからの必要なことを、これから、これから！
- ・最後にコンサルさんが言われた他のワークショップの意見が同じ様な考え方なのが共感できました。
- ・成功事例を実際に見に行きたい！

「川の日ワークショップ」参加を目指しませんか

毎年7月、東京代々木の青少年総合センターを舞台として、「川の日ワークショップ」という催しが開催されています。これは全国で川の活動をしている人たちが集まって、自分たちの取り組みを発表しあい、公開で「いい川」「いい川づくり」を選考しようというものです。今年で10回になりますが、毎年全国から70団体ほどが集まっています。

さて、今回の創刊号では、こうした「川の日ワークショップ」に参加している全国の団体が、川づくりで最も大切にしている事を3つ紹介します。



1. 本来の自然と共にさりげなく人の心を和ませる風景がある
2. 子供が楽しく水遊びができる
3. その川らしい姿の河川環境の整備、保全、再生がなされている

今回、ワークショップに参加されているみなさんもそうだと思いますが、小さい頃に川で親しんだ経験というのをみんなお持ちなんです。ただ、最近では、「よい子は川で遊ばない」というのが、標語になっているような時代ですけれども、そうじゃなくて、子供がやっぱりそこに入って遊べるような環境を親の世代が作らなくちゃいけない。もちろん防災も大切ですが、日常はやっぱり子供が遊べるようにしたいということ。それから、例えば北海道の釧路川という所ですけど、1970年頃に曲がっている川を真っ直ぐにしたんです。それで30年後何しているかということ、その真っ直ぐな川をまた曲げているんです。時代はだんだん変わってきて、工事優先から、やっぱり人の心を優先させて、それこそ歌で言う「ふるさと」の「うさぎ追いかの山・・・」の風景を思い出させるような川づくりをしていこうということが非常に重要になっています。

このように、今回、みなさんが考え、発表された内容と全く同じ事が全国で言われているんです。みなさんも、これから自信を持ってこういう動きをもっと広げて、土木事務所、市役所と一緒に自主的な団体を作ってください、この川ができた暁には、川の日ワークショップで「こういう活動をみんなでしているんだ」という報告を行って、プランニングを目指して欲しいなと考えています。